茅野市立永明中学校／生徒さん
新しくなったトイレの前のベンチ。
土器の街にちなんで壁をデザインしている。

長野県茅野市

茅野市立永明小学校・茅野市立永明中学校

1階 男子トイレ
校内のトイレは一つとして同じレイアウトやデザインがなく、
9年間にわたる学校生活を過ごす中での変化を大切にした。

豊かな自然と歴史的遺産が表現された新校舎

2022年2月に着工し、2024年4月から児童や生徒が学び始めた施設一体型の永明小・中学校。今後はアリーナやメイングラウンド、駐車場などが整備され、2028年には全工事が完了する予定となっています。

「以前は同じ場所に小学校と中学校が別々に建っていましたが、どちらの学校も施設設備の老朽化が著しかったことや、また地区コミュニティセンターや保育園など周辺の公共施設との連携を見据え、環境や安心・安全などに配慮した施設整備指針に基づいて、一体型の校舎整備に至りました。この事例が茅野市をはじめ、諏訪地域では初の施設一体型小・中学校となります」と茅野市教育委員会の畠山貴行さんは説明します。

8の字型ですべてが結ばれ、回遊性を持たせている新しい校舎。中央にメディアセンター、その両脇には中庭。北側と南側には

事例 新築 02

木の質感を大事にし、ぬくもりを感じる空間に仕上げられた校舎。

平行に2つの普通教室ゾーンが並び、そこに特別教室ゾーンが繋がっています。

新しい校舎を特徴づけるのは、1階を「茅野の土」、2階を「茅野の水」、3階を「茅野の森」と茅野市にゆかりのあるモチーフをコンセプトに、普通教室や特別教室のサインや壁面がデザインされていること。それはトイレのデザインにも展開されています。

バリアフリートイレ
男女問わず利用するバリアフリートイレは落ち着いた色調のタイルを採用。

3階南 トイレ 1
校舎から一望できる永明寺山のアカマツとそこに生い茂る草木を表現。

3階南 トイレ 2
長野県の県木の白樺と白樺湖を白のタイルを基調に色のコントラストで表現。

2階北 トイレ
御射鹿池の鏡のような、水面が映す季節の変化をモザイクタイルで表現。

事例 02 新築

長野県茅野市

茅野市立永明小学校・茅野市立永明中学校

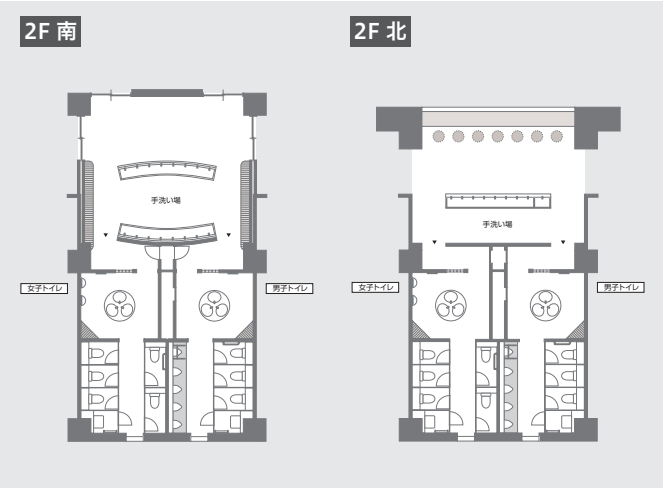
児童や生徒たちの想いを受け止めた新しいトイレ

一つとして同じデザインやレイアウトがないトイレ

永明小学校の校長先生が児童たちに「新しい校舎で一番好きなところはどこ？」と質問したところ、最も多かった答えが「トイレ」だったそうです。

また小学生にインタビューすると「旧校舎のトイレはニオイが強く、暗かった。新しい校舎のトイレは、タイルアートが楽しく、清潔感があって明るい」と答えてくれました。その言葉の通り、トイレに入ってすぐに目を引くのは壁面のモザイクタイル。そこには「土」「水」「森」という各階のコンセプトをもとに茅野市の自然や文化を感じるデザインが施され、以前より大きな面積を確保した窓が、自然光をたっぷり採り入れ、明るい空間となっています。手洗いは、トイレ内に設けられているほか、出入り口の手前にもセンサー式の自動水栓を設置した広い手洗い空間を確保。さらにバリアフリートイレも随所に設けられ、特別支援学級のすぐそばには専用のトイレも整備されています。

新校舎には一つとして同じデザインやレイアウトのトイレがありません。小学校から中学校へと長い年月を過ごすため、トイレごとに変化を持たせ、成長を感じながら違いを楽しむことができる空間になっています。



2階のトイレ。入り口に大きなスペースの手洗いコーナーが設けられ、多目的に使用できる。トイレ内には円形の手洗いカウンターがセンターに配置され、ワクワクするような空間に。校内のトイレは全てデザインが異なっていて成長を感じながら楽しむことができる。

名称：茅野市立永明小学校 茅野市立永明中学校／所在地：長野県茅野市塚原 1 丁目 9-1 ／児童生徒数：茅野市立永明小学校 児童数：519 人／茅野市立永明中学校 生徒数：315 人（2024 年 4 月）／施主：茅野市／設計・監理：東畑・茅野市設計事務所協会設計共同企業体／施工：（建築）カネモ・田村建設特定建設工事共同企業体（機械）共進エネーブ株式会社（電気）南新電気工業・平澤電気工事特定建設工事共同企業体／竣工年月：2028 年竣工予定

3階北 トイレ

八ヶ岳と紅葉を表現。タイルに角度を持たせ雄大な山並みを感じさせるデザインに。

学校のトイレ 事例
詳細情報はこちら
学校のトイレ 事例 検索

トイレサインピクトグラム

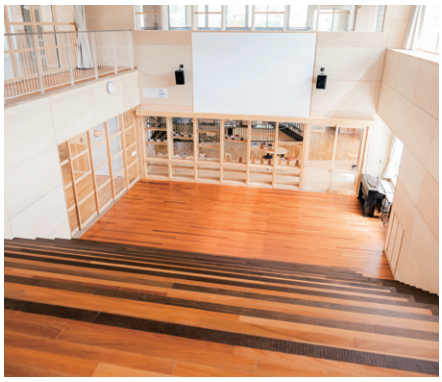
地域の特性を生かした、創造性豊かなトイレサイン。

トイレ壁面デザイン

土やモザイクタイルで児童・生徒がいっしょになって創作。地域性を表現したここにしかないデザイン。

メディアセンター／図書館

メディアセンター内にあり、地域の方も利用できる。靴を脱ぎリラックスして絵本を読めるコーナーもある。



メディアセンター／プレゼンテーションスペース

地域の方の交流拠点としても利用。

2階南トイレ／トイレ入り口手洗いコーナー

木材の優しさをさらに際立たせるアールを採用した設計。

児童や生徒たちの交流の場やほっとする空間に

今回の新校舎建設では、設計段階から地域住民や教職員、児童・生徒とワークショップを行い、計画について検討を重ねてきました。そのなかで、トイレにおいて児童や生徒の意見が反映されたのが入り口のサインです。「通常の男女を表すピクトグラムは用いず、小学校のフロアには縄文時代に使用されていた道具、中学校のフロアには周辺の山々をアイコン化したものを採用しています。トイレ内の個室の扉には、淡いトーンのブルーとピンクを用い、男女各トイレの視認性に配慮しました」と設計を担当した東畑建築事務所の久保久志さん。永明中学校の矢﨑知広校長先生は「総合的な学習の時間でジェンダーフリーについて学ぶ機会があり、久保さんにも入っていただきました。そこで男女を区別するデザインに対して生徒たちが疑問を投げかけ、その声を全面的に受け止めていただいた結果、今回のデザインが生まれました」と振り返ります。

このほかにも茅野地域の縄文文化を伝えたいということから、校舎完成前にモザイクタイル体験ワークショップを開催。縄文文化をイメージしたデザインを募り、選定した作品が1階トイレのモザイクタイルに反映されています。

永明小学校・永明中学校の校長先生方は、「新しい校舎の新しいトイレだからこそ、どうすればいつまでも美しい状態を残せるか、みんなで考えて使い、そして、掃除に取り組んでいこう」と機会があるごとに伝えています。

そこには、ワークショップなどで児童や生徒たちも新しい学校づくりに参加してきたからこそ、トイレの清掃についても自分たちで主体的に考えることを大切にしていきたいという願いが注がれています。

2階南トイレ／トイレ内手洗いコーナー

明るくさわやかな色づかいのトイレ。身だしなみを整えるカウンターも設置されている。

茅野市立永明小学校／児童さん

2階北トイレ／トイレ入り口手洗いコーナー

トイレ前に設置された手洗いは広々とし、清潔感と機能性を兼ね備えている。